

江戸川区街路樹指針～新しい街路樹デザイン～【概要版】

はじめに

背景と目的

本区では、平成21年に「江戸川区街路樹指針 新しい街路樹デザイン」を策定し、街路樹の整備や管理を進めてきた。しかし、時間の経過とともに気候変動や社会情勢・法制度の変化、街路樹の老木化・大径木化などによる多くの問題を抱えている。このような現況や上位計画・関連計画の内容を踏まえ、安全かつ快適な街路空間を確保し、街路樹を区民に愛され親しまれるものとしていくための指針へと改定する。

街路樹とは？

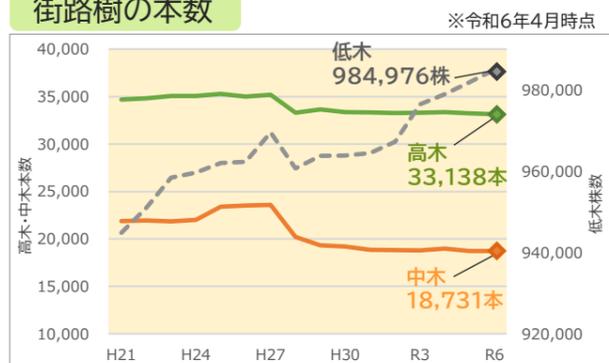
街路樹は法律で「道路の付属物」として規定され、「道路構造の保全、安全かつ円滑な道路の交通の確保、その他道路の管理上必要な施設または工作物」として位置づけられている（道路法第2条第2項）。

街路樹の機能と効果

- ・緑陰形成機能
- ・生活環境保全機能
- ・景観向上機能
- ・自然環境保全機能
- ・交通安全機能
- ・防災対策機能

第1章 街路樹の現状・緒元

街路樹の本数



都内の区市町村の中で、本区は最も街路樹本数が多い。前回指針策定時(平成21(2009)年)に比べ、高・中木の本数は微減、低木株数は増加した。

街路樹路線と歩道幅員

本区は幅員の狭い道路が多く、街路樹が植えられている道路で有効幅員が十分に確保できていない路線も多い。

本区の街路樹本数TOP10

高木で最も多いのは、区の木であるクスノキ

ハナミズキやケヤキ、イチヨウなどの都内各地で多く植えられている樹種が上位を占めている。

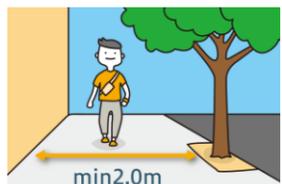
高木	
クスノキ	4,131
ソメイヨシノ	2,670
イチヨウ	2,474
ケヤキ	2,403
ハナミズキ	2,088
マテバシイ	2,057
ヤマモモ	1,874
タブノキ	1,742
ヤマボウシ	1,590
ユリノキ	1,170
...	
全高木数	33,138

区民からの意向・要望

令和6年10月に実施したアンケート調査によると、街路樹の機能の中で、特に重要なものとして「景観の向上」「季節を感じる」が選ばれている。

第3章 街路樹の計画

植栽基準



有効幅員2.0m以上を確保



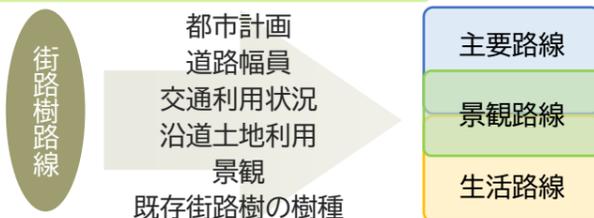
高木の標準的な植栽間隔は6～8m

既存街路樹の更新・改修方針

問題が複合的に生じ、安全確保に緊急性があると認められる街路樹路線を更新や改修の検討対象とする。

- ・有効幅員が狭い
- ・著しい根上りによる舗装の破損
- ・老木化・大径木化による生育空間との不適合
- ・樹木の樹勢不良、病気

機能分化した街路樹風景の創出



主要路線

本区の交通ネットワークの軸を担っており、歩道幅員が広く、車両や歩行者の利用が多い。主に大きく枝葉を張った高木の並木とし、大きい樹冠と緑陰を有する統一的な樹形により地域の代表となる景観を目指す。



生活路線

主に地域住民が利用する道路で、車道・歩道幅員ともに比較的狭い。大木になる樹種は避け、空間に適した並木の形成を目指す。



景観路線

花や紅葉により四季を感じられたり、風格のある常緑樹路線など、周辺環境と調和した美しい景観を創出している路線



第2章 街路樹の方針と方向性

本区の街路樹が抱える問題

- ・樹勢不良と異常気象による落枝・倒伏リスクの増大
- ・歩道の幅員の制限による通行障害の発生
- ・幅員に合わせた更新等による緑量の減少
- ・落葉・落実による諸問題の発生
- ・病虫害による衛生および安全上の問題発生
- ・強剪定による景観や樹勢への影響
- ・街路樹と周辺環境との不調和
- ・維持管理コストの増大

取組方策

I 安全かつ快適な街路空間の確保

1. 植栽基準
2. 老木・大径木の除伐・更新
3. 樹木の生長を見込んだ樹種の選定
4. 植栽基盤の改善
5. 日常的な点検や街路樹診断の活用

II 街路樹の定義と機能分化の明確化

本区の道路環境と街路樹の関係を整理し、「主要路線」「生活路線」「景観路線」に機能分化した街路樹風景の創出を目指す。

III 街路樹の質(景観・緑量)の確保

1. 街路樹の量から質重視への転換
2. 「景観路線」の維持管理
3. 江戸川区のシンボルロードを創る
4. 緑視率を高める
5. 区民参加型による景観の形成

IV コストの低減ができる、持続的な街路樹管理

1. 機能分化に応じた維持管理手法の検討
2. 維持管理スケジュールの見直し
3. 街路樹データの可視化
4. 街路樹樹種リストの見直し

第3章 街路樹の計画

目標樹形の設定

- ① 植栽環境の確認
- ② 路線分類と機能の確認
- ③ 植栽樹種の確認
- ④ 自然樹形の把握と樹姿の設定
- ⑤ 樹形寸法の設定
- ⑥ 管理計画の設定

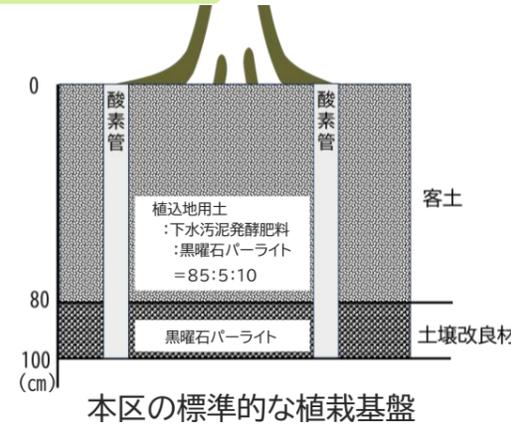
樹種の選定方針

- ・ 本区の環境と親和性が高く、持続的に管理が可能な樹種を選定
- ・ 各地域の環境(特に土壌基盤)に適した樹種を選定
- ・ 現場の条件および樹木特性を踏まえた樹種を選定
- ・ 更新後の維持管理コストを考慮
- ・ 緑量(緑視率)維持のため中低木やつる植物の導入も検討

地区	葛西地区A	路線No.	6	地番	船堀1丁目	愛称名・道路番号	207-0070
歩道幅員	3400mm	植栽樹タイプ	単独樹・(植樹帯)	樹種	クスノキ		
現況樹形		現況樹高	7.0m	現況枝強	3.5m	現況樹形	標準形
		A:歩道幅員	3400mm	B:有効幅員	2050mm	C:植樹幅員	1350mm
		植樹帯内舗装	有(無)	現況課題	・ 樹形、枝張り共に目標樹形に到達している ・ 多少樹形に乱れがあり、統一感を損ねている		
目標樹形		目標樹高	7.0m	目標枝強	3.5m	目標樹形	卵形
		対応策	・ 樹形を整え、並木としての統一感を創り出す				

路線別目標樹形カード

街路樹の生育環境



根系誘導耐圧基盤材は根上りや倒木の防止、樹勢回復に有効である。今後は比較的広い路線で大木になる樹種や、景観路線などで施工を検討する。

第5章

街路樹の維持管理に対する評価

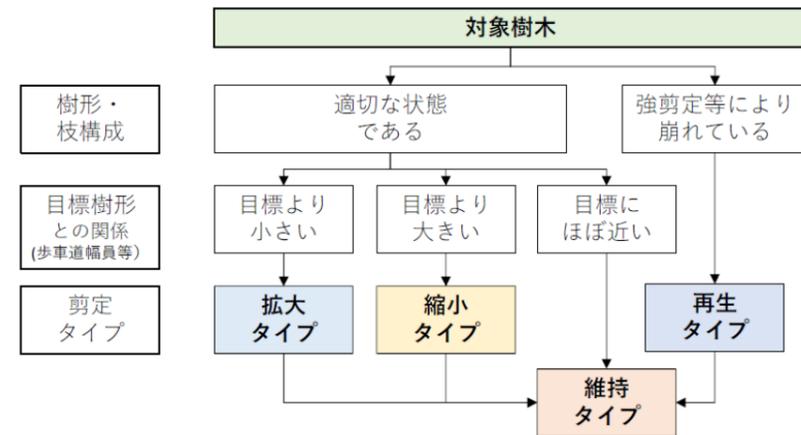
行政と管理受託者それぞれが、PDCAサイクルに基づき街路樹管理事業を評価、見直しを行う。



第4章 維持管理実務

街路樹の剪定

樹木の生理サイクルを理解し、最適な時期に目標樹形に合わせた剪定を行い、美しい街路樹景観の創出に努める。



施肥と土壌環境の改善

- ・ 必要に応じて施肥や土壌改良を行い、土壌環境を改善する
- ・ 雑草対策について、新たな手法の導入やボランティアとの連携を検討

病虫害防除

次のステップで対策を進め、被害を最小限に抑える。

1. 病虫害が発生しにくい環境作り
2. 住民への啓発、普及
3. 早期発見
4. 防除作業



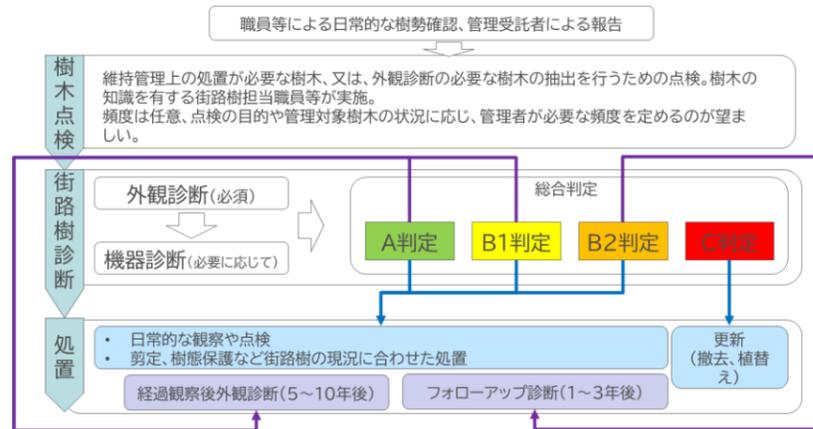
チャドクガ



イラガ

街路樹診断

日常的な確認、定期的な点検、必要に応じた街路樹診断を行う。



除伐

街路樹は、枯損や歩行空間の安全確保のため、また道路工事の影響により除伐が必要な場合がある。除伐の際には地域住民への周知を徹底し、除伐材は積極的に再資源化やリサイクルをする。



陳情対応

街路樹の役割・機能に対する住民の理解を得られるように努め、全区民がその利益を享受することができるような維持管理を目指す。

中長期的な維持管理スケジュール

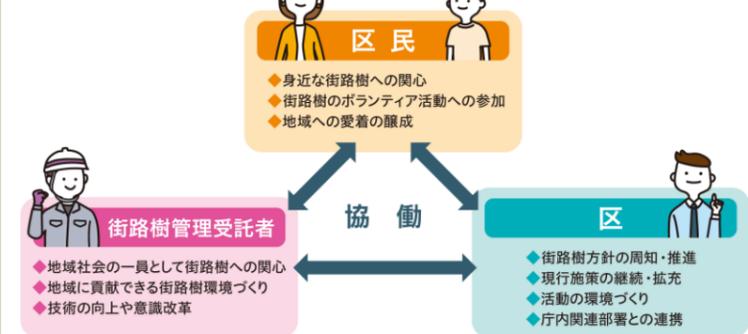
- ・ 街路樹点検を含めた台帳管理・更新
- ・ 街路樹の維持管理に係る体制づくり
- ・ 年間スケジュールの整理

第6章 区民協働・情報発信

街路樹と生活

- ・ 身近な自然を理解する
- ・ 身近に緑を増やす
- ・ 街路樹に対する愛着の醸成
- ・ 環境教育教材としての街路樹の活用

住民との連携



区民・街路樹管理受託者・区の役割

広報活動

- ・ 「広報えどがわ」による情報発信
- ・ ホームページによる情報発信
- ・ SNSでの情報発信



EDOGAWAMIDORI

